わがまち歴史散歩

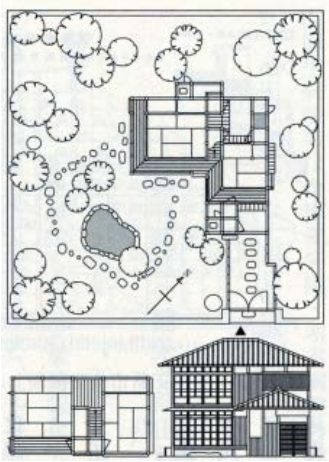
市史編纂（さん）だより㊥

室町の「家族本位」の住宅

明治43（1910）年、箕面有馬電気軌道株式会社は大阪市と箕面・池田・宝塚を結ぶ電鉄線を開業しました。今の阪急宝塚線と箕面線です。同社は住宅開発も手がけ、池田駅の南西、呉服神社周辺に室町住宅を作りました。住宅都市池田の第一歩といえますが、今回はその間取りについてです。

客間が中心

発売当初の室町住宅は100坪ほどの区画に、建坪30坪内外の4タイプの住宅付きでした。二階建て和風建築で座敷を一番日当たりのよい南側に置く、客間中心の間取りは共通です。価格は1800円から2500円で、頭金を払った残金は割賦払いもできました。電鉄会社の住宅開発、規格住宅分譲と月賦販売。どれも当時としては画期的な試みで、大阪市に通勤するサラリーマンの心をひきつけたのです。



▲当初の室町住宅（吉田高子「池田室町／池田」『近代日本の郊外住宅地』鹿島出版会）

居間や台所を南へ

その後、さまざまなタイプの住宅が販売されました。その中に、大正2（1913）年に催された婦人博覧会、そこで展示された住宅図案による住宅もあります。箕面有馬電気軌道株式会社のPR雑誌『山容水態』に紹介されました。建坪26坪（約86平方メートル）の平屋建て住宅で、同誌の3年7月号に平面図と併せ次のような説明が付いています。

「南及西に面する日当りよき居間、食堂、書斎等の常用室を配置し、これに反対の方に客室を採りたるは、従来の接客本位を排して家族本位の住宅設計に近接したるを認む、採光とともに通風に注意し、いずれの室もことごとく相当の通風位に配置されたる」

洋風の間取りを取り入れ、南側の日当たりのよい位置に居間・食堂・台所を据え、客間を北西に追いやるなど、それは当時破天荒ともいえる間取りでした。

都市の家族

同誌によれば、最近は家族を中心にした生活を重視し、便利で衛生的な住まいが喜ばれるようになったといいます。都市の成長とともに会社勤めの月給取りが増えたのはこの時期です。結婚して家を新しく持つ。家族は夫婦と子どもだけで、住まいは消費・子育て・慰安の場に。そんな都市の家族像が住宅のありかたに投影されたといえないでしょうか。

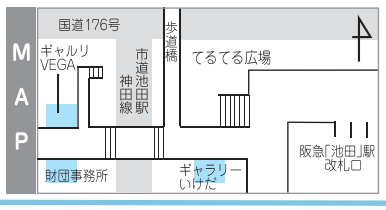
大正から昭和初年には、「生活改善」「文化生活」「文化住宅」という言葉が流行しました。衣食住の洋風化、個室を重視した中廊下式間取り、通風・採光と能率性を重視した台所など、どれも都市家族の新しい需要に応じてのことです。

（市史編纂委員会専門委員・植木佳子）

◀婦人博覧会の住宅図案（『山容水態』大正3年7月号、㈶阪急文化財団池田文庫蔵）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- ●長井正義・森邦彦二人展（絵画）　～5/2(月)
- ●筆とナイフの絵2人展（中西美智子・来馬健二郎）　5/4(祝)～9(月)
- ●墨の絵（宮本信代）　5/11(水)～16(月)
- ●風景画を中心に一中西雅恵展　5/18(水)～23(月)
- ●椿と桜島の作品展（塩屋信敏）　5/25(水)～30(月)

【ギャルリVEGA】

- ●3人展（上田保隆・宮田保史・三上利秋）　～5/2(月)
- ●徳治昭童画展「リンリンだゾウ！」絵本出版記念展　5/4(祝)～5/9(月)
- ●刺し子あじさいの会（東仲昌代）　5/11(水)～16(月)
- ●廃材家具展（永島庸・力也）　5/11(水)～16(月)
- ●大阪空港カルチャースクール・箕面駅前スクール第8回合同展（手島榮子）　5/25(水)～30(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより 俠

南方塾池田練成場

池田市に開設

昭和17（1942）年4月、戦局が東南アジアに拡大し日本軍占領地が次々増えていた時、大阪府は急きょ南方塾を設立しました。その目的は将来南方各地に進出し活躍する青少年に対して、語学や現地事情を教え、併せて心身の鍛練を行うことでした。このことは当時、国の方針として積極的に進められていました。

南方塾の修行年限は1年という短期養成、そして授業料は無料。入塾資格は国民学校高等科修了以上満19歳未満、身体健全、意志堅固な者でした。男子部だけでなく、女子部もありました。1期生の募集を行ったところ、全国から応募者が殺到し、男子165人、女子49人と、定員を大幅に上回りました（『朝日新聞』昭和17年3月3日）。

南方塾の本部は大阪市内にある府立貿易館（現マイドーム大阪）に、専用農場を持つ練成場（実習場）は池田市内の池田城跡に置かれました。男子は週2回、女子は週1回池田練成場で実習訓練（農作業）が行われました。

池田練成場正門（昭和17～18年ごろ、小林千代子氏提供）

興亜時習社の跡地

池田練成場は3月号で紹介した興亜時習社（満州、中国東北部における人材養成機関）の施設が利用されました。塾長は貿易館長であった花和銀吾、以下職員は学監1人、教授4人、特別講師3人、講師17人、助手4人、事務6人、タイピスト1人という構成でした。1期生は男子121人、女子26人の計147人でした。

昭和18年4月からは教科と練成の総合教育を進めるため、南方塾の池田練成場を拡充します。学級数も3学級から5学級に増設し、国民学校修了者（第1部）と中等学校修了者（第2部）に分けて、前者には基礎を、後者には従来よりも教育課程を高めて指導することになりました。そのため、校舎と寄宿舎の増築が行われました。

中国語、英語、マレー語を勉強

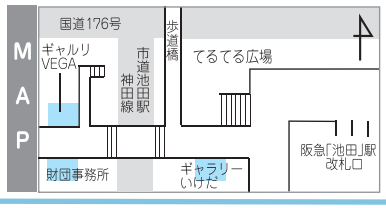
戦時下の教育は国民精神の高揚・体力の向上・心身の練磨は当然のことですが、この南方塾では外国語の習得に力が入れられていたことが大きな特徴でした。昭和19年4月に入学した茨木市に住んでいる齋藤多門さんは、父親の本棚にあった「南方事情」というパンフレットから南方に興味を持ち、府立茨木中学校（現府立茨木高校）修了後、南方塾に入学しました。午前中の授業では、中国語、英語、マレー語を学びました。午後からは農作業で、食料事情が悪かったため伊丹飛行場まで行ってサツマイモを植えることが多かったといいます。齋藤さんら3期生は男子のみ39人で、11月に繰り上げ卒業となりました。昭和17～19年3年間の南方塾の卒業生は、男子254人、女子49人の計303人でした。

南方塾池田練成場のその後の経緯は、『新修池田市史』第3巻をご覧ください。

市史編纂委員会専門委員・室田卓雄

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●森たかみつ個展－ハニーポット－	6/1(水)～6(月)
●山路均第3回油彩展「水に生かされ」	6/8(水)～13(月)
●中村幸枝絵画展（うつろいの中で）	6/15(水)～20(月)
●「花と自然と」土井桂子油彩展	6/22(水)～27(月)
●佐々木和子個展	6/29(水)～7/4(月)

【ギャルリVEGA】

●ザ・スペース作家展	6/1(水)～6(月)
●第30回裸婦クロッキー展	6/8(水)～13(月)
●今井画塾Delta展VOL.Ⅷ	6/15(水)～20(月)
●「四季の詩」周逸鶴	6/22(水)～27(月)
●桂梅團治鉄道写真展“甦ったＳＬ達”	6/29(水)～7/10(日)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

祝 刊行 『新修池田市史』第4巻〈現代編〉

～現代編刊行により通史完結～

市教育委員会では多くの皆さんの協力をいただき、このほど『新修池田市史』第4巻〈現代編〉を刊行しました。池田市史は既刊の4冊と合わせ、ついに古代から現代までの池田の通史全5巻すべてがそろいました。7月16日㈯から販売を開始しますので、ぜひお買い求めください。

★現代編の見どころ

日本の戦後史において、重要な意味をもった郊外都市。その生活スタイルは戦後日本人のモデルともなりました。本市は戦前以来、最も早くから、そして戦後には大阪の代表的な郊外住宅地として発展してきました。まさにこの時代の日本を現しているといえるでしょう。

現代編ではこうした本市の戦後の歩みを詳述しています。全国史の流れの中で、その特徴を浮き彫りにすることをめざしました。

新しく見つかった資料から今まで知られていなかった事実を発掘し、また、多くの市民にご協力いただいた聞き取りを活用して、戦後の本市の歴史を生き生きとよみがえらせています。

「なぜ池田市では長期安定市政が続いたのか？」「レトロな商店街が頑張っている理由は？」「酒づくりから自動車製造まで、池田市の事業家たちはどんな創意・工夫をこらしているのか？」「池田市の女性たちはどのように敗戦後の困難に立ち向かったのか？」「全国に名高い池田市の教育はいかに形づくられたか？」そして、「21世紀の池田市の課題は何か？」などなど。戦後の池田市に関する数々の疑問への回答がそこにあります。

★池田市史の販売状況

販売場所＝総合窓口課、生涯学習推進課、旧城山勤労者センター、中央公民館、歴史民俗資料館、市民文化会館、カルチャープラザ、㈶いけだ市民文化振興財団、耕文堂書店、甲川正文堂、ブックファースト池田店など　**販売価格**＝第4巻〈現代編〉6000円

※第1巻〈地理・考古・古代・中世編〉3500円、第2巻〈近世編〉4200円、第3巻〈近代編〉5400円、第5巻〈民俗編〉4500円。

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

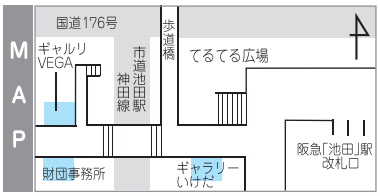
『新修池田市史』第4巻刊行記念講演会
～市民と語る戦後の記憶～

『新修池田市史』第4巻の刊行を記念して、戦後の池田の歩みを市民の皆さんとともに振り返ります。

とき＝7月16日㈯午後2時～3時30分　**ところ**＝市役所7階大会議室　**内容**＝第4巻の市史を執筆・監修した池田市史編纂委員会委員・芝村篤樹さんによる講演「池田の戦後が問いかけるもの」など

※当日は会場で市史の販売も行います。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●佐々木和子個展	～7/4㈪
●柴田幸子“ハナハナexhibition”	7/6㈬～11㈪
●土方吉久絵画展	7/13㈬～18㈷
●第4回野村よしお個展	7/20㈬～25㈪
●川村信子個展	7/27㈬～8/1㈪

【ギャルリVEGA】

●桂梅團治鉄道写真展“甦ったSL達”	～7/10㈰
●第11回ACF川西写真展	7/13㈬～18㈷
●コケラヲトシ.2	7/20㈬～25㈪
●現代精鋭作家展	7/27㈬～8/1㈪

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

祝 刊行 『新修池田市史』第4巻〈現代編〉

～現代編刊行により通史完結～

★懐かしい写真が満載！

市教育委員会では、このほど『新修池田市史』第4巻（現代編）を刊行しました。

当巻では、多くの方の協力を得て、数々の貴重な写真を掲載しています。今回はそのうちの一部をご紹介します。紙幅の都合で載せることができなかった写真も併せてご覧ください。

①

②

③

昭和36（1961）年に、今の阪急池田駅近くにあった消防署の火の見やぐらから東の方面を撮影した巻頭掲載写真（①）です。国道176号には自動車がほとんど走っていません。左手前の建物が旧市役所、道を隔てて今はない公会堂、そして商工会議所、さらに奥には大阪工業技術試験所（現産業技術総合研究所関西センター）の煙突が見えます。

②の写真も同じ場所から西の方面を撮影したものですが、掲載できなかった写真です。池田駅をはじめ、今とは全く異なる風景に驚かされます。

③は昭和36年、開設された新宅児童遊園（木部町）の様子で、これも同じく巻頭掲載写真です。子どもたちの歓声が聞こえてきそうです。

④の写真は最後まで掲載候補に残ったものです。同じ日に撮影されたもので、楽しそうな笑顔が印象的な一枚です。

④

このほかにも、昔懐かしい写真などが多く掲載されています。既刊の4冊と合わせ、古代から現代までの池田の通史全5巻がそろいましたので、ぜひ手にとってご覧ください。

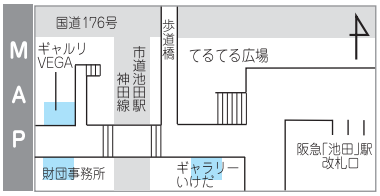
★池田市史のお求めは

販売場所＝総合窓口課、生涯学習推進課、旧城山勤労者センター、中央公民館、歴史民俗資料館、市民文化会館、カルチャープラザ、㈶いけだ市民文化振興財団、耕文堂書店、甲川正文堂、ブックファースト池田店など　販売価格＝第4巻〈現代編〉6000円

※第1巻〈地理・考古・古代・中世編〉3500円、第2巻〈近世編〉4200円、第3巻〈近代編〉5400円、第5巻〈民俗編〉4500円。

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●高村喜美子作品展	8/31㈬～9/5㈪
●金田卓爾油絵展	9/7㈬～12㈪
●リフレッシュ工事のため休廊	9/14㈬～19㈷
●白井武志水彩展	9/21㈬～26㈪
●三谷照男水彩画回顧展	9/28㈬～10/3㈪

【ギャルリVEGA】

●泉州楽～葛上康次と風呂山恵美子の個展～	8/31㈬～9/5㈪
●原田嘉徳グループ有志による“ほっと展”	9/7㈬～12㈪
●第11回グループ“翔”展	9/14㈬～19㈷
●安井寿磨子「こどもほじょりん製作所」出版記念版画展	9/21㈬～26㈪
●多賀保惠個展	9/28㈬～10/3㈪

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

祝 刊行 『新修池田市史』第4巻（現代編）

～現代編刊行により通史完結～

このほど刊行した『新修池田市史』第4巻（現代編）には、多くの方から提供いただいた貴重な写真を掲載しています。前回に引き続き、その一部（①③）を紙幅の都合で掲載できなかった写真（②④）と併せて紹介します。

コッペパンの学校給食

戦後の池田市の学校給食は昭和22（1947）年に始まりました。当時は海外からの援助物資やPTAからの資金、炊事奉仕に大きく依存していました。

写真①②は給食開始から約10年後、昭和30年代初めの池田小学校の様子です。おかっぱ頭やいがぐり頭の児童たち、2脚つながった木製の机、大きなコッペパンとアルマイトの食器…。当時の雰囲気を伝える貴重な写真です。

五月ヶ丘団地の造成

五月ヶ丘団地の入居が始まったのは昭和34年です。複数の写真をつなぎ合わせたパノラマ仕立ての写真④は、同年に入居された方が撮影した当時の五月丘です。五月山南側の広大な敷地に、団地が建設されていく様子がよく分かります。航空写真③は完成した五月ヶ丘団地の全景です。この五月丘の開発をきっかけとして、本市は大阪の郊外住宅地として、さらなる発展を遂げていきました。

★池田市史のお求めは

このほかにも、昔懐かしい写真が多数掲載されています。既刊の4冊と合わせ、古代から現代までの通史全5巻がそろいましたので、ぜひこの機会にご覧ください。

販売場所＝総合窓口課、生涯学習推進課、旧城山勤労者センター、中央公民館、歴史民俗資料館、市民文化会館、カルチャープラザ、(財)いけだ市民文化振興財団、耕文堂書店、甲川正文堂、ブックファースト池田店など　**販売価格**＝第4巻（現代編）6000円

※第1巻（地理・考古・古代・中世編）3500円、第2巻（近世編）4200円、第3巻（近代編）5400円、第5巻（民俗編）4500円。

①

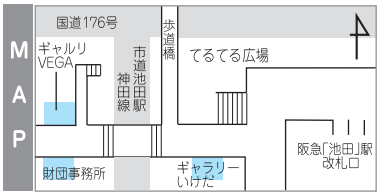
②

③

④

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●三谷照男水彩画回顧展	～10/3(月)
●橋詰咲子水彩画展	10/5(水)～10(祝)
●音色画展（河合絵一）	10/12(水)～17(月)
●KOTORI KEINO Exhibition	10/19(水)～24(月)
●出口彰水彩画展	10/26(水)～10/31(月)

【ギャルリVEGA】

●多賀保惠個展	～10/3(月)
●廃材家具展（永島庸）	10/5(水)～10(祝)
●第34回 彩赤会展	10/5(水)～10(祝)
●安食愼太郎展－10年の軌跡－	10/12(水)～17(月)
●KO・櫻楓会 合同作品展	10/19(水)～24(月)
●手仕事の醍醐味（川口・辻子・中山）	10/26(水)～10/31(月)
●近藤雄士　木の家具展	10/26(水)～10/31(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）

〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）

【使用期間】水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

祝 刊行 『新修池田市史』第4巻（現代編）

～現代編刊行により通史完結～

この『新修池田市史』第4巻（現代編）の刊行で、ついに古代から現代までの池田の通史全5巻が揃いました。現代編は、昭和20（1945）年終戦から20世紀の終わり平成12（2000）年までを収めています。今回は戦後の混乱期から復興期について、その一部をご紹介します。

食糧難・住宅難からの出発

戦後は全国的に深刻な食糧難で、大規模な戦災に遭わなかった本市も例外ではありませんでした。栄養不足から発疹チフスなども流行。多数の戦争遺族や、海外からの引揚者・復員者、そして住宅難…。その困難は大変なものでした。

占領軍も池田にやって来ます。市民と多くの摩擦を引き起こす一方、学校グランド整備への協力や子どもたちとの交流などもありました。さまざまな困難のなかで、力強く歩み始める市民の生活や動きを多方面から触れています。

占領軍と渋谷中学校グランドの整備（昭和23年）

大赤字から健全財政へ

敗戦の影響が色濃く残る昭和20年代は、厳しい財政状況のもとで、数々の新しい施策を行わなければなりませんでした。本市ではこうした中、庁舎や病院の建設、教育・道路・上水道施設の拡充など、思い切った施策を次々と打ち出していきます。後に財政再建団体に指定されますが、その間も下水道事業などを積極的に推し進め、7年後には健全財政に転換するという、およそ今の時代では考えられない展開をたどります。

敗戦後の困難な時代から、「住んで得する池田市」を掲げ、やがては全国有数の充実した公共施設やサービスを誇るに至った池田の施策の秘密やその緊迫した市政の過程に迫ります。

先人たちの努力

教育も民主化を念頭に大きな改編が行われます。今までとは全く異なる、新しい教育の姿を求めて模索・奔走し、やがては全国をもけん引するほどの位置を占めるまでになる「池田の教育」をつくり上げたたくさんの人々が登場します。

このほかにも商店や市場の再生、金融機関の創立、自動車や酒造、植木産業の再起など、池田の商業や産業の復活・向上をめざして、有名無名の多くの人々の努力と挑戦がこの時代にあったことを描いています。

ぜひとも、『新修池田市史』現代編を手にとって、敗戦後の困難に立ち向かい、今の池田の土台をつくり上げた多くの先人たちの歩みに触れてみてください。

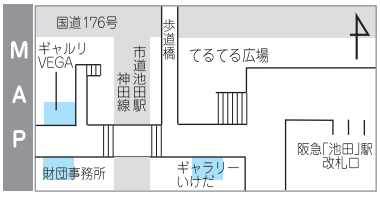
★池田市史のお求めは

販売場所＝総合窓口課、生涯学習推進課、中央公民館、歴史民俗資料館、市民文化会館、カルチャープラザ、㈶いけだ市民文化振興財団、耕文堂書店、甲川正文堂、ブックファースト池田店など　**販売価格**＝第4巻（現代編）6000円

※第1巻（地理・考古・古代・中世編）3500円、第2巻（近世編）4200円、第3巻（近代編）5400円、第5巻（民俗編）4500円。

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎753・2904）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●中山光弘水彩画展“みずえの彩り”	11/2(水)～7(月)
●加藤信子個展（絵画）	11/9(水)～14(月)
●井手津久雄陶芸展	11/16(水)～21(月)
●“お～い雲 '11”碇貴代司パステル画展	11/23(祝)～28(月)
●汪洋（洋画展）	11/30(水)～12/5(月)

【ギャルリVEGA】

●江原和足展“北摂春秋Ⅳ”	11/2(水)～7(月)
●グループ0川西絵画教室展	11/9(水)～14(月)
●岡田教室日本画展	11/16(水)～21(月)
●キベクラフト展	11/23(祝)～28(月)
●手作りハウス	11/30(水)～12/5(月)
●吉永沙母アクリル絵画展	11/30(水)～12/5(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより倖

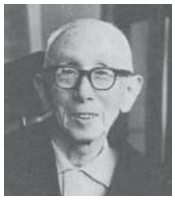
美術のまち池田

近代の池田は「出版のまち」（本誌4月1日号）であると同時に、「美術のまち」でもありました。旧家を中心に書画の鑑賞と収集が熱心に行われた一方で、次のような作家や写真家たちが創作に励んでいました。

多様多彩な芸術家たち

厳しい自然を好んで描いた洋画の鍋井克之（1888～1969）は池田市名誉市民です。鍋井を尊敬した古家新（1897～1977）は、やはり風景画に打ち込みました。

日本画家としては、町人絵師と自認して座敷に飾れる美しい絵をたくさん描いた須磨対水（1868～1955）、対照的に寡作であった樫野南陽（1887～1956）、女性を描いて文展や帝展でも名をはせた木谷千種（1895～1947）、彼女に師事した狩野千彩（1906～92）がいました。


鍋井克之

古家新

前田虹映

前田虹映（1897～1945）は、鳥瞰図で著名な吉田初三郎の高弟として数々の名所案内図を描きました。そして「瀞峡」で写真界に登場した小川月舟（1891～1967）は、大阪の北浜に開業して独特な構図による肖像写真を撮影しました。

小川月舟

池田での創作活動

戦時下にはのちに池田市名誉市民となる金工の平松宏春（1896～1971）が、戦後には、木谷千種のような画家になりたいと思った融紅鸞（1906～82）・洋画の胡桃沢源人（1902～92）夫妻が石橋周辺に住まいを求めました。石橋には昭和5（1930）年から鍋井克之が定住し、一時は前田虹映や古家新もいましたから、さながら芸術家村の感があります。

室町の小川家も池田内外の芸術家を集めるにぎやかな場でした。須磨対水と木谷千種も室町で描いています。狩野千彩は満寿美町に、樫野南陽は小阪前町（現綾羽2丁目）に住んでいました。

須磨対水

右から木谷千種・狩野千彩

平松宏春

居住期間に長短の差はありますが、いずれも美術史にきらめく作品を残しています。

池田師範学校からも

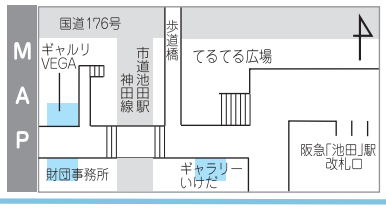
また、池田師範学校の美術教師たちは生徒に教えながら、精力的に作品を発表していました。昨年夏には、卒業生の一人で下渋谷で生まれ、パリに住み、ヨーロッパで高い評価を受けた吉田堅治（1924～2009）の生涯と画業がNHKで紹介されました。近代池田の美術が私たちの心を動かす力は、今なお大きいといえるでしょう。

池田の作家のすべてをここにご紹介することはできませんでしたが、市民の皆様、あるいは皆様のご両親やご親族のなかには、こういった芸術家と交流された方がいらっしゃることでしょう。ごく日常的な話題でも芸術の議論でも、ぜひ市史編纂担当まで思い出などをお寄せください。

市史編纂委員会専門委員・石川遼子

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6295）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●汪洋洋画展	11/30(水)～12/5(月)
●古橋正二メモリアル絵画展	12/7(水)～12(月)
●本荘正彦花彩りの木版画展	12/14(水)～19(月)
●辻隆夫似顔絵展	12/21(水)～26(月)

【ギャルリVEGA】

●手作りハウス	11/30(水)～12/5(月)
●吉永沙母アクリル絵画展	11/30(水)～12/5(月)
●千里創美会展（日本画・水彩画）	12/7(水)～12(月)
●大阪青山大学・大阪青山短期大学「アソビと造形」展	12/14(水)～19(月)
●ステンドグラス 律子・美紀展	12/21(水)～26(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日、12/27日(火)～1/6(金)
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

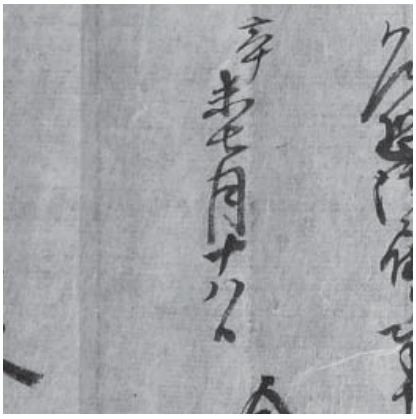
市史編纂（さん）だより倖

年をどう数えてきたか

時代で変わる書き方

皆さん、普段は西暦を使っていますか、それとも年号を使っていますか。どっちも使っているという人も多いですよね。もっとも、こう聞かれたら「そりゃあ十二支だよ」っていう人もいるかもしれません。ただ、私もこれまでたくさんの文書に年の数字を書き入れてきましたが、そこに「寅」とか「卯」とか書いたことはないですね。

私は職業柄、昔の文書や記録によく目を通します。池田でも数多くの史料を見てきました。すると、そこに見られる年の表記が実におもしろいんですね。今とはずいぶん違っています。また、時代とともに書き方が変わってきます。



明治４年の書き付け（辛未とだけ記されている）

十二支だけ

江戸時代には年号なしに、「辰」とか「巳」とか十二支だけで済ましているのが案外多くあります。借用証文なんかほとんどそうですね。後から読むといつの辰なのか巳なのか見当もつきません。それが「来る午の年六月末には必ず返済します」なんて書いている。さっぱり分かりません。困ったもんですが、そのときの関係者にはこれで良かったのでしょう。何しろ、文書は当事者が分かればいいのであって、後世の歴史家のために丁寧に書き残すなんてことは思ってもいないことですからね。

手紙になるともっとひどくって、年など書くことはまれですね。文末にせいぜい何月何日だけ。中身が大事となれば、歴史家は中身を何度も読み、どこかに手掛かりを探して書かれた年を定めようと努めます。そして、考えるのですね。何が分かるかって。

戊辰戦争

ところで、明治維新といえば世の中の仕組みも価値観もこれを境にガラッと変わりましたね。

慶応４（１８６８）年の正月から翌年５月にかけて薩摩・長州・土佐・肥前の４藩を中心に古い徳川の残存勢力と戦って、それをつぶしてしまいました。正月早々の「鳥羽伏見の合戦」から始まって、４月「江戸の無血開城」、５月「彰義隊の戦い」、５月からの「長岡戦争」、８月からは白虎隊で知られた「会津戦争」、そして翌年５月の「箱館戦争」と続きますね。これらを全部合わせて「戊辰戦争」と呼ぶんですね。

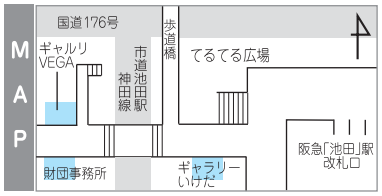
さて、「なぜ戊辰戦争というのか？」ここが問題なんです。これは実は干支からきたもので、当時の年の数え方に関係しているんです。このころの人はしばしば改元される年号よりも干支のほうを普通に使ってたんですね。慶応４年は９月８日から明治元年となるんですが、年号は変わっても「戊辰」の年。明治２年は「己巳」の年、３年は「庚午」の年、４年は「辛未」の年、５年は「壬申」の年と呼んでいました。これが、明治６年になって急に干支が使われなくなります。この年、太陽暦の採用もあったのですが、今のような年号表記になってくるんですね。要するに、昔から年の数え方にはいろいろあったということなんですね。

市史編纂委員会副委員長・小田康徳

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎752・1111内線167）

※市史編纂事務室は職員会館に移転しました。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- ●久保義浩「絹絵の世界展」 1/7(土)～16(月)
- ●魔除け般若のエネルギー 池内浪重日本画展 1/18(水)～23(月)
- ●中田ふみよ・井上陽士郎二人展 ～美ら美ら（紅型と陶芸細工）～ 1/25(水)～30(月)

【ギャルリVEGA】

- ●徳治昭童画展～ほっこりワールド～ 1/7(土)～16(月)
- ●平尾倫子色えんぴつ画＆半蔵作品展 1/18(水)～23(月)
- ●土方美也子個展 anytime anywhere 1/18(水)～23(月)
- ●京都きもの絵師とその仲間達展 1/25(水)～30(月)

【開館時間】10:00～19:00（最終日は16:00まで）
【休館日】～１/６(金)、火曜日（１/10は開館）
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉５万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝７・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の６日間
【申し込み】使用希望月の１年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより79

府立南方塾拓殖学校

塾から実業学校へ

昭和20（1945）年2月、米軍による大阪への空襲がいよいよ本格化する中、池田城跡に設けられていた「大阪府南方塾池田練成場」は、文部省から実業学校の認可を受け、4月に「大阪府立南方塾拓殖学校」として開校しました。

この南方塾は戦時中、東南アジアに進出して貿易や事業に従事する人材の養成を目的に、大阪府が設けた1年制の教育機関です。大阪市内に塾舎が、池田城跡に休校していた「興亜時習社」（23年3月号参照）を利用した練成場がありました。

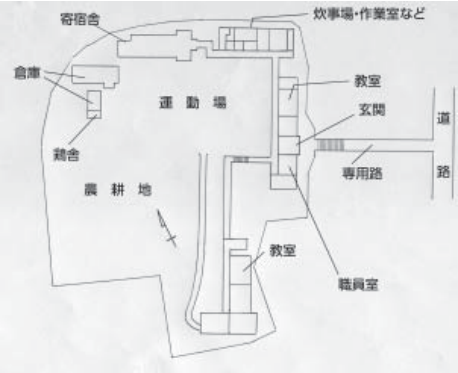
しかし、国策である経済戦士の育成には、従来の塾組織では成果が上がらなくなっていたこともあり、中等学校令による実業学校とすることで、生徒募集、教職員の招請、さらには教育資材の調達などを容易にすることをめざしたのでした。

授業料なし・寮費は補助

設立申請書によると、設置学科は農業拓殖科・商業拓殖科（90人、修業年限3カ年）、専攻科（30人、同1カ年）の三つ、全学年の定員は120人。入学資格は農業拓殖科・商業拓殖科は国民学校高等科修了者、または同等以上の学力を持っている14歳以上の男子、専攻科は同校卒業者、または中等学校卒業者などとなっていました。入学検定料は1円、授業料は徴収せず、寮費は公費から補助されました。

教科の内容は3学科とも「国民科」（修身や国語など）や「実業科」（東亜事情・外地生活など）のほか、「理数科」「体錬科」「芸能科」がありました。このうち実業科は、さらに学科に応じて、農産加工・商業経済・簿記会計などの内容が加わりました。芸能科の中身は分かりませんが、1年生のみ週2時間の配当でした。

池田練成場時代との大きな違いは、週10時間前後あった外国語がわずか3時間に減ったことと、新しく理数科ができたことです。理数科のうち数学は1年生が週4時間で、実習の週5時間に次ぐ時間数でした。



戦時下の学校

教職員は最終的に、校長以下、教員14人、書記2人、舎監2人など、計28人でした。給料は校長年3400円、教員月128円（平均）、書記月80円（同）を予定していました。

設備・備品には体練用として、小銃130丁、銃剣130丁、軽機関銃2丁などもあり、戦時下の学校であったことがよく分かります。

校舎は図のように配置され、20坪（約66平方メートル）ほどの教室が六つ、玄関の上の2階には小さな図書室がありました。また、別棟で2階建ての寄宿舎などもありました。

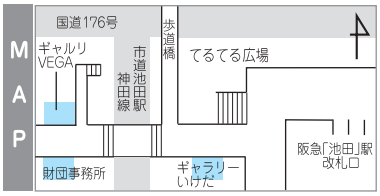
この拓殖学校も終戦後に「大阪府立海外商業学校」となり、新規生徒募集を行わず、昭和24年3月に廃校されました。こうしたこともあり、その実態はよく分かっていません。資料をお持ちの方を探しています。ご存知の方は生涯学習推進課にご連絡ください。

（市史編纂委員会専門委員・室田卓雄）

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

市史編纂事務室の場所が市役所7階に移動しました。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- ●昭和を彩った～池田市ゆかりの画家達展　2/1(水)～6(月)
- ●櫻井　聡 絵画展　2/8(水)～13(月)
- ●さき織作品展（重田暢舞子）　2/29(水)～3/5(月)

【ギャルリVEGA】

- ●カルチャーVEGA教室　春展　2/1(水)～6(月)
- ●梅花女子大学短期大学部“生活の美アート展”　2/8(水)～13(月)
- ●若狭若州個展・紅葉会展　2/22(水)～27(月)
- ●コケラヲトシ．3　2/29(水)～3/5(月)

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日、2/15(水)～20(月)
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の6日間
【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
(財)いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）

わがまち歴史散歩

市史編纂（さん）だより㉑

もう一つの黒船来航

1853年6月、浦賀沖（現横須賀市）にペリー率いるアメリカ艦隊が来航しました。いわゆる「黒船来航」です。しかし、実はその翌年、大阪湾にも外国船が来航しました。歴史の教科書ではほとんど書かれることのない、「もう一つの黒船来航」です。

ロシア軍艦ディアナ号の来航

1854年9月、一隻の外国船が大阪湾の天保山沖に来航しました。ロシア使節プチャーチンの乗る軍艦ディアナ号です。

なぜロシアの軍艦が大阪湾に来たのでしょうか。1853年以降、江戸幕府とプチャーチンとの間では、条約の締結に向けて交渉が進められていました。一方、当時のロシアは、バルカン半島への進出をめぐってオスマン帝国およびイギリス・フランスと戦争をしていました（クリミア戦争）。そのため、プチャーチンは日本との交渉を早く切り上げたかったのです。そこで、天皇のいる京都に近い大阪湾に行けば、幕府は驚いて、すぐにロシア側の提案を受けいれるだろうと彼は考えつきました。

実際、ディアナ号の大阪湾来航に、幕府はたいへん驚きました。ディアナ号の来航を受けて、大坂町奉行がロシアとの交渉にあたるとともに、天保山沖には90近い藩が兵を出しました。このとき、池田市域に所領をもっていた麻田藩も出兵しています。交渉は期待していたほどスムーズには進まず、結果、ディアナ号は開港地の下田（静岡県）に向かい、そこで日露和親条約が締結されることとなりました。

ディアナ号来航と池田の人々

ディアナ号の来航に驚いたのは、もちろん幕府だけではありません。ここで、今在家村（現豊島南あたり）の庄屋中田治左衛門の記録から、「もうひとつの黒船来航」が池田の人々にあたえた「衝撃」を見てみましょう。治左衛門は、外国船の天保山沖来航に関する情報をかき集め、『天保山へ異国船渡来事』という記録を書き残しました。このなかで、「昔から長崎へは万国より船が来ていたらしいが、大阪などは思いも寄らず」と、治左衛門自身、大阪湾に外国船が来るとは予想外であったと述べています。

また、ディアナ号の来航によって、大阪湾近辺の村々からは、武具や食糧などを運ぶ「人足」が多数動員されました。治左衛門が残した別の記録からは、今在家村においても、ディアナ号が来航したその日の夜に、10人が「急人足」として派遣されたことが分かります。人足の動員は、人々の農作業にも大きな影響を与え、「百姓たちは、米の秋の取り込みの最中であり、まことに大迷惑」と治左衛門は嘆いています（『天保山へ異国船渡来事』）。

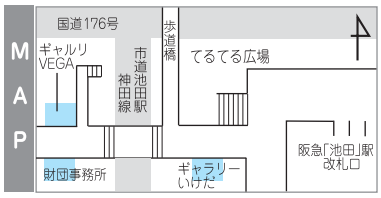
クリミア戦争という世界史的な背景をもつディアナ号の大阪湾来航と、それに衝撃を受け、動員された池田の人々。「もう一つの黒船来航」は、まさに、世界史と池田の歴史をつなぐ大きな事件でした。

（大阪大学特任研究員・後藤敦史）

『天保山へ異国船渡来事』（中田家文書）に描かれたロシア船

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂（☎754・6674）

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

●さき織作品展（重田暢舞子）	2/29㈬～3/5㈪
●畠仲一實個展（絵画）	3/7㈬～12㈪
●山尾好子作品展（絵画）	3/14㈬～19㈪
●中川洋子水彩画展	3/21㈬～26㈪
●黒川文子水墨画展	3/28㈬～4/2㈪

【ギャルリVEGA】

●コケラヲトシ．３（現代アート）	2/29㈬～3/5㈪
●廃材家具展（永島庸・力也）	3/7㈬～12㈪
●油彩画の仲間達四人展（宮本範熙、山路均、佐藤利之、田村幸男）	3/7㈬～12㈪
●大阪大学美術部春部展	3/14㈬～19㈪
●書の歩みと写真の二人展（岩田年子、淵元洋一）	3/21㈬～26㈪
●手作り作品展（西山、長谷、下口）	3/28㈬～4/2㈪
●手仕事の仲間展（大野博史・久美子、藤沢裕子、有原和代）	3/28㈬～4/2㈪

【開館時間】10：00～19：00（最終日は16：00まで）
【休館日】火曜日
【入館料】無料
【使用料】
〈ギャラリーいけだ〉5万円（展示販売不可）
〈ギャルリVEGA〉15万円（ブロックの分割使用＝7・10万円＝、展示販売も可）
【使用期間】水～翌週月曜日の６日間
【申し込み】使用希望月の１年前から

使用申し込みは
㈶いけだ市民文化振興財団
（☎750・3333）